経産省前10日間のハンガーストライキをした米原幹太さん、玄海町へ行く！

九州電力　玄海原子力発電所　四号機再稼働・・・・「空飛ぶ危険性」（mix 日記）

玄海町役場へ電話して、再稼働のことを、原子力担当の財政企画課の課長さんから話が聞けた。 相手方も、会ってみたら、ただのバカっぽい若者だったから、安心したんだろう。 人と人として、気楽に話した(笑) いくつか質問したことを、書いておこう。

問:今回、再稼働したことについて、どう思ったか?

答:福島の事故のこともあったので、個人的には驚いた。それも、ネットを通じて初めて知った。今回の再稼働は、地元の合意が無くても、法律上問題がなかった。町長へは伝わっていて、了承はしていた。

問:再稼働に対して、地元の人の反応は?

答:町内は、いつもと何ら変わりない。抗議の電話や、FAX のほとんどは、町外から。関東や、福岡から多数。

問:原発を誘致してから、人口は増加しているのか?

答:原発の建設の際に、一時的に増加した。その後、最盛期からは、減り続けている。ただ、減り方は緩やか。原発がなかったら、もっと急激に減っていると思う。

問:原発以外に、産業があれば、脱原発はありえるのか?

答:あればできると思う。しかし、その他にも、脱原発して、この国の経済が回るのか?電気の発電量は足りるのか?地球温暖化は大丈夫なのか?が、問題だと思う。

問:町役場も立派なんですが、なぜ、そういったところにばかりお金を使うのか?

答:以前は、ハコモノ(建造物)にしか、交付金が使えなかった。それは、国が定めていたこと。だから、ソフト事業(公共サービスなどの業務)にも使えるように交渉はしてきた。最近ようやく、緩和されて、保育園の職員の人件費に回したりしている。

まぁ、こんなところ。 もちろん、別に、悪い人じゃない訳ね。 ただ、知らないことが多いというか、視野が狭いというか・・・ それが、仇となってる気はした。

つまり、立地自治体の人は、偏った情報しか知らないのかと、改めてわかった。＊

だから、課長には、原発の本当のコストを知ってもらう参考として、立命館大学の、大島堅一さんをお勧めした。

かなり興味津々だったので、京都大学の小出裕章さんの『原発のウソ』をプレゼントするために、今日買ってきた。 まぁ、読んだり、見たりして、原発の危険さや、ウソに気づいたとしても、課長が何か行動するかどうかはわからない。 むしろ、しないと断言できるんだけど。一発逆転があるとしたら、内部からのはずだからね。

何かが変わって欲しい。 そのチャンスがあるなら、やらずにはいられない。 次の子供たちは、 すぐ後ろに迫っているからなぁ。　（以上抜粋）

＊これは電力会社の人にも言えます。お話した関電の方知らないこといっぱいありました。(惟)

以下文中の大島教授の記事を載せます。10 日内閣府による原発コストの試算が発表されました。被害額5兆円と見積もり、上乗せ1．6円で最大7．6円ということです。この5兆円という金額があまりに低いことを驚くとともに、実はその前のコストの試算も正しくなかったことが、昨年の9月に原子力安全委に原子力大綱見直しに関する識者の意見として出されていました。

東日本大震災：福島第1原発事故　原発の問題点を聞く／京都　毎日新聞　2011.4．13地方版

東日本大震災で発生した東京電力福島第1原発の事故。放射性物質の流出や拡散は多方面に巨額の経済的被害をもたらし、他の電力会社も含めて安全対策の大幅な見直しを迫られている。事故前からエネルギーの費用計算で原発政策の問題点を指摘し、**昨秋に原子力委員会で識者として提言した大島堅一・立命館大国際関係**